

グループメンバー

石橋基弘(株式会社デンソー)
岡誠一郎(三菱電機株式会社)
森健一郎(オムロン株式会社)
本部長隆弘(パナソニック株式会社)

蓮野剛(中村留精密工業株式会社)
添田武志(富士通株式会社)
佐郷昭博(三菱重工株式会社)
則久孝志(オークマ株式会社)

ビックデータによる予知保全

【BS106】

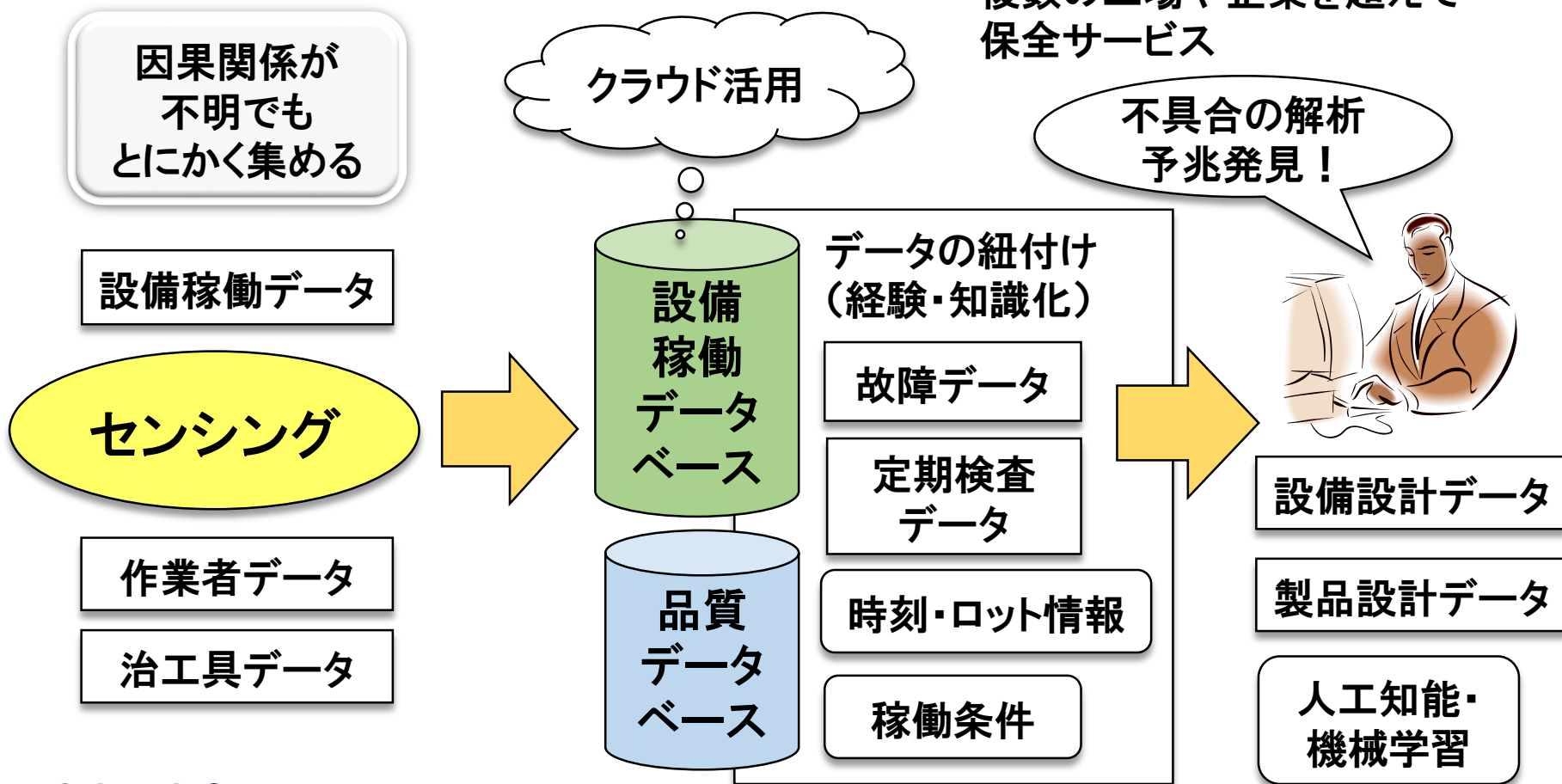
報告者

オムロン株式会社
森 健 一 郎

生産設備の予知保全

- 多数のセンサーから時々刻々生まれる莫大な時系列データ
- 蓄積した時系列データの知識化

複数の工場や企業を超えて
保全サービス



アウトプット

どうとるか

配線をはい回すなどデータを取るのにコストがかかる

どこで点検、保全するかのきっかけが欲しい(高い精度は不要)

データを取る場合の費用負担(メーカー側、ユーザ側どちらがすべきか(共同?))

今ある設備をどうするか
ex後付のセンサなど

「どんな設備では何を取ればよいか」決めることがリファレンスモデルになる?

どうつなぐか

現場はひも付けが出来ない

(プロトコル、仕様が違う)との声大きい
ex.基板と部品など

工場の外(クラウド)にデータを出すことに抵抗は?

↓
プログラム×、
ガスタービンの温度○

どう分析するか

データを集めてもわかるもの、わからないもの、両方ある

経験、感覚をデジタル化する試みあり

同種の設備間で比較して改善につなげる

取ったデータのOK/NGの判断が難しい
データ分析するアプリケーションが高額(アナリストへの依頼)

ファナック(事例)制御装置のファン交換時期をアラーム

分析した対象に対してどこまでお金を掛けられるか

どんな仕事にかえるか

予防保全、センサをメンテナンスする仕事が増える

ダウンタイム=0

生産現場で設備の面倒を見れる「自立保全」化

